慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	来し方はみな面影に : 略歴と主要業績など
Sub Title	Tout ce qui fut, traces d'images... : parcours et principales publications
Author	笠井, 裕之(Kasai, Hiroyuki)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2026
Jtitle	教養論叢 (Kyoyo-ronso). No.147 (2026. 2) ,p.409- 419
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	下村裕先生・横山千晶先生・安田淳先生・笠井裕之先生退職記念特集号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062752-00000147-0409

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

来し方はみな面影に
——略歴と主要業績など——

笠　井　裕　之

略　歴

1961 年 2 月 25 日　母の実家があった埼玉県浦和市（現さいたま市浦和区）にて出生。1 週間ほどして父母の住まいのある長野県篠ノ井市（現長野市篠ノ井）に移り，大学入学まで過ごす。美術批評家の峯村敏明氏も篠ノ井の出身で，この町が「何もない新開地」だったので「外の世界への憧れ」が強くなったと語っている[1)]。わたしも同じで，高校生のころ，四方を山に囲まれたこの閉所から一刻も早く脱出しなければと考えていた。——さて今はどうだろう。近ごろ，少し里心がついてきたかもしれない。歳のせいか，ご多分にもれず。

1979 年 3 月—4 月　長野県立屋代高等学校を卒業，慶應義塾大学法学部政治学科に入学。

大学受験を控えて，もともと文学部に入りたい気持ちはあったが，文学部で学ぶにはもっと才能と努力が必要なはずで，わたしにはその資格がないと自分に言い聞かせていた。そのころ興味があったのは国文学で，とくに『伊勢物語』の，散文（物語）と韻文（歌）が交錯するところに惹かれていた。ところが 1 年生のとき（担任だった筑紫文耀先生のフランス語の試験前夜に）ジャン・コ

1)　WEB 上の記事「峯村敏明オーラルヒストリー第 1 回」（日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ）。

クトーの小説『恐るべき子供たち』を読み，説明のつかない異様な衝撃に打たれて，文字どおり苦しいほど胸が震えた。じっとしていられず，当時住んでいた日吉の町を明け方までさまよった。そしてこの奇妙な心的現象の謎を解くために仏文科に行きたいと考えるようになった。

政治学科 2 年生のとき，日吉の教室で，すでに定年退職され，名誉教授として出講されていた朝吹三吉先生（朝吹亮二さんの父上）との出会いがあった。朝吹先生は翌年，翌々年と三田の授業を担当されたので，計 3 年間，お世話になる機会を得た。ボードレール，カミュ，ボーヴォワールの作品を親しく解説していただいた贅沢な授業――それは文学を渇望していたわたしにとって至福の時だった。そんなある日の授業のあと，文学部に移りたいのです，と朝吹先生に相談した。先生は，文学は趣味にするのは幸福だが，職業にするのは不幸である，とおっしゃった。そして，まずは法学部で学んで卒業しなさい。それでも文学を勉強したければ，学士入学という選択肢もある，と諭してくださった。わたしは先生の言葉に従ったのか，あるいは背いてしまったのか。いずれにしても法学部を卒業したあと，文学部仏文学専攻に学士入学した。朝吹先生は 2001 年に逝去された。そのとき，わたしはフランスに留学中で葬儀にもうかがえなかったが，『教養論叢』（第 114 号）に追悼文を書かせていただき，感謝の言葉を捧げた。

1983 年 3 月―4 月　慶應義塾大学法学部政治学科を卒業，同文学部仏文学専攻に学士入学。

仏文科の指導教授は大濱甫先生。19 世紀の詩人ジェラール・ド・ネルヴァルを専門とする碩学で，その精緻なテクスト読解と深い学識はまさに研究者の鑑と思われた。大濱先生の背中からどれほど多くを学んだことか。

フランス現代詩に造詣の深い田中淳一先生に出会ったのもこのころのこと。仏文科の友人たちと田中先生を囲んでフランス現代詩を読む読書会をはじめた。田中先生は日吉の経済学部に所属されていたので，毎回，日吉の教室を借りてくださった。懐かしいかまぼこ形の古びた小さな校舎――いまは図書館が建っている場所だ。

伝統ある詩の同人誌『三田詩人』を復刊したのは，この読書会のメンバーの発案だった。すでに詩人として活躍していた朝吹亮二さんには，版元の紹介からゲラの赤入れの仕方，そして作品の批評まで，何くれとなく面倒をみていただいた。

学生時代に佐藤朔先生と親しくお付き合いする機会を得たのも幸せなことだった。佐藤先生は瀧口修造とともに西脇順三郎に師事した人で，慶應仏文科で多くの弟子を育てた大先生，つまりわたしたちの先生の先生で，しかも塾長までつとめた人だから，学生が気軽に近づける人ではなかった。ところが佐藤先生は，80 歳を目前にしてにわかに詩を書きはじめたので，「新鋭詩人」のひとりとして，わたしたちは佐藤先生に同世代の仲間意識のようなものを感じ，何度も永福町のお宅にお邪魔した。佐藤先生は日本におけるコクトー研究の先駆者でもあったから，佐藤先生から授かった学恩ははかりしれない。

1988 年 3 月　慶應義塾大学大学院文学研究科仏文学専攻修士課程修了。

修士論文はコクトーの初期作品，絵入りの奇妙な作品『ポトマック』をテーマとした。要領がわるく，1 年遅れての提出となったが，これを日本フランス語フランス文学会で発表した。学会誌刊行前の校正刷を持参してフランスに行き，当時はフランスでもまだ少数だったコクトー研究者に会って読んでもらった。運よくソルボンヌ（パリ第 4 大学）教授のジャン・トゥゾーさんから，研究誌に載せるので修正版を作って送るようにと連絡があり，いさんで原稿を送ったものの，その後，さっぱり音沙汰がないまま時が過ぎた。そして 8 年後の 1998 年，新宿の洋書店で新刊の研究誌をたまたま手にとると，驚いたことにその論文が掲載されていた。校正刷を見る機会もなかったが（おそらくトゥゾーさんが手直ししてくださったのだろう），ともあれ，これがフランスで発表された最初の論文となった。

1991 年 3 月　慶應義塾大学大学院文学研究科仏文学専攻博士課程単位取得退学。

博士課程在籍中の 1990 年，慶應義塾外国語学校ではじめて教壇に立ち，そ

の後も長く「慶應外語」の仕事にたずさわった。受講生の多くは，さまざまなバックグラウンドをもち，自費で授業料をまかないながら真剣に学ぶ社会人たち。駆け出しの教員にとって，教えることの厳しさと楽しさを身をもって知る，得がたい学びの機会となった。

1994 年 4 月　慶應義塾大学法学部に専任講師として奉職。2004 年 4 月に准教授，2016 年 4 月に教授となる。

法学部に迎えていただいて 30 年あまりが経ったことになる。そのあいだ，さまざまな場面で支えてくださった多くの先輩と同僚の先生方，職員の方々に，まず心からの感謝を捧げたい。

法学部のフランス語教育を充実させること，これが仕事の本義であったことはいうまでもない。とくにフランス語部会でメンバーとともに力を注いだのは，統一教科書の作成と統一試験の実施である。いずれも授業内容と成績評価の平準化をはかる試みで，いまも一定の成果をあげていると思う。

フランス語の授業に加えて，詩の創作をテーマとする授業を日吉の人文科学特論の枠でおこなったこともここに記しておきたい。2011 年に朝吹亮二さんと一緒にはじめた授業で，その後，三田に進んだ学生のために人文科学研究会も開講した。法学部には言葉による芸術的表現に興味をもつ学生が少なくない。もともと詩人を育てる目的ではじめた授業ではなかったが，結果として現代詩の賞を受賞する者，詩人として活動する者がつぎつぎとあらわれた。また，他大学の創作系授業との連携をはかる「インカレポエトリ」の活動は，現代詩の世界で注目される運動となった。

法学部を離れた活動となるが，アート・センターのアーカイヴ「瀧口修造コレクション」の担当所員として，1 万点以上におよぶ瀧口の遺品資料の整理と研究活動に携わってきた。はじめは田中淳一先生の助手というか見習いのような立場で，田中先生が退職されたあとは，先生の仕事を後任として引き継ぐかたちで。いつしかわたしの研究領域は，コクトーだけでなく，瀧口修造（日本における前衛芸術研究）も加わることとなった。

主要な業績

1. ジャン・コクトーに関するもの

編　著

・「ジャン・コクトー生誕 100 年記念小展示目録（付・慶應義塾大学図書館所蔵コクトー関係文献一覧）」，慶應義塾大学三田情報センター，1989 年 11 月．

・大出敦，田上竜也，笠井裕之，牛場暁夫『現代フランス文学――受容と展開 ヴァレリー，コクトーの未公開草稿を中心に』，第 22 回慶應義塾図書館貴重書展示会図録，慶應義塾図書館，2009 年 10 月．

・*Cahiers Jean Cocteau 16 : Jean Cocteau et l'Orient*, sous la direction de David Gullentops et Hiroyuki Kasai, Paris, Éditions Non Lieu, mars 2018.

・*Cahiers Jean Cocteau 22 : Édition critique de* La Machine infernale, sous la direction de Hiroyuki Kasai, Paris, Presse-Pluriel, décembre 2024.

論文・論説

・「コクトー伝――Je reste avec vous」，『ユリイカ』（特集・コクトー 永遠の詩人――生誕百年），青土社，1989 年 9 月．

・« Lire *Le Potomak* de Jean Cocteau », in *Études de Langue et Littérature Françaises*, N° 56, Tokyo, Société Japonaise de Langue et Littérature Françaises, mars 1990.

・「コクトーの未完のバレー『ダヴィデ』について――『パラード』覚え書（1）」，『慶應義塾大学日吉紀要フランス語フランス文学』第 12 号，1991 年 3 月．

・「コクトーの初期作品としての『パラード』――『パラード』覚え書（2）」，『教養論叢』第 93 号，1993 年 3 月．

・« Le Drame masqué sous mille farces », in *Jean Cocteau 2, autour du "Requiem"*, Paris-Caen, Lettres Modernes Minard, 1998.

・「コクトーのセクシュアリティをめぐって」，『現代詩手帖』（特集・コクトー

の世紀）2000 年 2 月号.
・「コクトーと日本」,《ジャン・コクトー》展図録，北海道立近代美術館，山梨県立美術館，岩手県立美術館，2005 年 4 月.
・「ジャン・コクトー『地獄の機械』の生成過程に関する覚書」,『教養論叢』第 134 号，2013 年 3 月.
・「ジャン・コクトー『地獄の機械』の生成論的研究に向けて――執筆過程と現存する草稿の検証」,『教養論叢』第 137 号，2016 年 2 月.
・「ジャン・コクトー『地獄の機械』の生成論的研究に向けて――エディション・クリティックの試み（1）（2）」,『慶應義塾大学日吉紀要フランス語フランス文学』第 62-63 号，2016 年 3 月，10 月.
・« Cocteau et la littérature japonaise classique. Au sujet de sa lecture du *Dit du Genji* et de contes de Saikaku », in *Cahiers Jean Cocteau 16 : Jean Cocteau et l'Orient*, sous la direction de David Gullentops et Hiroyuki Kasai, Paris, Éditions Non Lieu, mars 2018.

雑誌等記事

・「ジャン・コクトー――線のエチカ」，浅田彰，松浦寿輝との鼎談，『現代詩手帖』（特集・コクトーの世紀），2000 年 2 月号．浅田彰『20 世紀文化の臨界』（青土社，2000 年）に再録.
・「セーヌ通り十四番地――フランスのコクトー事情」,『すばる』（特集・コクトー再発見への試み），2001 年 4 月.
・「コクトー研究余滴――『地獄の機械』の自筆原稿をめぐって」,『教養論叢』第 144 号，2023 年 2 月.

翻　訳

・ジャン・コクトー,「ジャン・コクトーの日記『定過去』より――1952 年のプルースト再読」,『教養論叢』第 118 号，2002 年 6 月.

口頭発表・講演

・「ジャン・コクトーの『ポトマック』を読む」，日本フランス語フランス文学

会春季大会，明治大学，1989 年 5 月．
・「コクトーと日本の古典文学」，歴史講座Ⅱ「ジャン・コクトーと日本人」第 2 回，新宿歴史博物館，2008 年 2 月．
・« Présentation des *Cahiers Jean Cocteau 16 : Jean Cocteau et l'Orient* », Les Amis de Jean Cocteau, Paris, Musée Yves Saint Laurent, mars 2018.
・「バレエ『パラード』を読む――コクトーの台本に隠されたもの」，グローバル・コミュニケーション学会講演会，同志社大学京田辺キャンパス，2025 年 6 月．
・« *La Mort du Sphinx* ou la transmutation réversible du corps — à travers les manuscrits de *La Machine infernale* », colloque : « Jean Cocteau, le déniaisement des lettres et des arts », Centre culturel international de Cerisy（CCIC）, août 2025.

2. 瀧口修造に関するもの

編　著

・『瀧口修造 1958――旅する眼差し』，慶應義塾大学アート・センター（田中淳一，笠井裕之，朝木由香）／編，慶應義塾大学出版会，2009 年 10 月．
・《東京 ローズ・セラヴィ――瀧口修造とマルセル・デュシャン》展図録，笠井裕之，田中淳一，朝吹亮二，朝木由香，橋本まゆ，大前美由希／編著，慶應義塾大学アート・センター，2012 年 12 月．
・『瀧口修造／ジュアン・ミロ往復書簡集』，笠井裕之，松田健児，朝吹亮二，朝木由香／編訳，慶應義塾大学出版会，2026 年 2 月．

論文・論説

・「慶應義塾大学アート・センター・瀧口修造アーカイヴから」，《瀧口修造 夢の漂流物》展図録，世田谷美術館／富山県立近代美術館，2005 年 2 月．
・「『後期瀧口』に近づくために：1958 年の旅――リバティ・パスポート――オブジェの店」，《瀧口修造とマルセル・デュシャン》展図録，千葉市美術館，2011 年 11 月．
・「瀧口修造＝マルセル・デュシャン書簡資料集」，朝木由香，笠井裕之，橋本

まゆ，水沼啓和／編訳，《瀧口修造とマルセル・デュシャン》展図録，千葉市美術館，2011 年 11 月.

・「瀧口修造と東京 ローズ・セラヴィ」，《東京 ローズ・セラヴィ――瀧口修造とマルセル・デュシャン》展図録，慶應義塾大学アート・センター，2012 年 12 月.

・「終止符を打たないこと――《檢眼圖》と《檢眼図傍白》」，《東京 ローズ・セラヴィ――瀧口修造とマルセル・デュシャン》展図録，慶應義塾大学アート・センター，2012 年 12 月.

・「純金の鍵の行方――西脇順三郎と瀧口修造」，『Booklet 21：光源体としての西脇順三郎』，慶應義塾大学アート・センター，2013 年 1 月.

・「オブジェの店――現実と架空のあわいに」，『マージナリア・ジャーナル特別号 2：パピエプリエ 01――蝶番のタブローをつくること（曲尺や書物などのように……）』，慶應義塾大学アート・センター，2023 年 12 月.

・「略伝瀧口修造――シュルレアリスムの純金の鍵」，『三田文學』2024 年冬季号，2024 年 2 月.

雑誌等記事

・「瀧口修造――書く人，描く人」，『ミセス』，2013 年 3 月号.

・「瀧口修造 1963――《オブジェの店》と《リバティ・パスポート》」，『現代詩手帖』（特集・瀧口修造，没後 40 年：実験とは何か），2019 年 11 月号.

口頭発表・講演

・「1958 年ヨーロッパ旅行関連資料のデジタル情報化［瀧口修造アーカイヴ］」，慶應義塾大学デジタルアーカイヴ・リサーチセンター成果報告シンポジウム「アーツ・アーカイヴのいま」，慶應義塾大学三田キャンパス，2006 年 2 月.

・「瀧口修造と東京 ローズ・セラヴィをめぐって」，「20 世紀初頭のフランス文芸思潮におけるモダニズムの形成と展開に関する実証的研究」研究会，同志社大学今出川キャンパス，2012 年 12 月.

・「瀧口修造研究会特別例会：パピエプリエ 00：交信紙――岡崎和郎の矢印について」，シンポジウム企画と司会，慶應義塾大学三田キャンパス，瀧口修造研究会（慶應義塾大学アート・センター），2022 年 12 月．
・「オブジェの店――現実と架空のあわいに」，シンポジウム「瀧口修造研究会特別例会：パピエプリエ 01：蝶番のタブローをつくること（曲尺や書物などのように……）」，慶應義塾大学三田キャンパス，瀧口修造研究会（慶應義塾大学アート・センター），2023 年 12 月．
・「東京 ローズ・セラヴィ――瀧口修造とマルセル・デュシャン」，ギャラリー SAI，NEW AUCTION，2025 年 1 月．
・「瀧口―ミロの往復書簡研究概要」，シンポジウム「瀧口修造研究会特別例会：パピエプリエ 03：第五の季節――瀧口修造とジュアン・ミロ」，慶應義塾大学三田キャンパス，瀧口修造研究会（慶應義塾大学アート・センター），2025 年 12 月．

3. その他

編　著

・『山中散生書簡資料集』，田中淳一，朝吹亮二，笠井裕之，松田健児，朝木由香／編訳，神奈川県立近代美術館，2017 年 9 月．
・『共時的星叢：風車詩社與新精神的跨界域流動』（「致《共時的星叢》特展――著眼於慶應義塾之藏品」），台湾，原點，2020 年 12 月．
・*Zoom!*（新装改訂版），フランス語教材，慶應義塾大学法学部フランス語部会／著，駿河台出版社，2021 年 2 月．
・*Zoom! 2*（中級編），フランス語教材，慶應義塾大学法学部フランス語部会／著，駿河台出版社，2022 年 3 月．
・慶應学生詩集，編集（『304／サンマルヨン』2012 年 3 月，『[si:ka]』2015 年 3 月，『 青 5 号 』2018 年 3 月，『 雑 居 ／multi-tenant』2019 年 3 月，『anni*versery*』2020 年 3 月，『tele.』2021 年 3 月，『と も し 灯』2022 年 3 月，『𝄇（Repeat）』2023 年 3 月，『NOISE BOX』2024 年 3 月，『∫ ―integral』2025 年 3 月）．

・『インカレポエトリ』創刊号～第 10 号，共同編集，2019 年 10 月 -2024 年 4 月.

論文・論説

・「『日曜日の散歩者』によせて」，『三田文學』2017 年秋季号，2017 年 11 月.
・「寫給《日曜日式散歩者》的三大主題／『日曜日の散歩者』に寄せる三つの主題」，『日殖時期現代文藝的共時與差異　論壇專輯』，國立台灣美術館，2020 年 7 月［2019 年 6 月 30 日に國立台灣美術館（台中）でおこなった講演の記録，電子書籍］.

雑誌等記事

・「忘れえぬ言葉――朝吹三吉先生に」，『教養論叢』第 114 号，2001 年 2 月.
・「台中へ――《共時的星叢》展をみる」，『現代詩手帖』（特集・東アジアのパースペクティヴ――モダニズムをめぐって），2019 年 8 月号.
・「反復する夢――ルイス・ブニュエルの『皆殺しの天使』」，『シュルレアリスム 100 年映画祭』，トレノバ，2024 年 10 月.

翻　訳

・アブデルケビール・ハティビ，桐村茜『変成』（詩画集），Paris, Atelier Boni, 2006 年 3 月（Abdelkebir Khatibi, Akané Kirimura, *Transmutation*）.
・ジャン＝クラランス・ランベール，桐村茜『BIOS』（詩画集），Montpellier, Maison de la Gravure Méditerranée，2011 年 6 月（Jean-Clarence Lambert, Akané Kirimura, *BIOS*）.
・アラン・ジュフロワ，桐村茜『質問』（詩画集），Paris, Éditions R.L.D.，2015 年 5 月（Alain Jouffroy, Akané Kirimura, *Questions*）.
・「アラン・ジュフロワの 最後の／最初の 言葉」，『教養論叢』第 139 号（朝吹亮二先生退職記念号），慶應義塾大学法学研究会，2018 年 2 月.

口頭発表・講演

・「『幕間』―1924 年のアヴァンギャルドたち」,「映画『幕間』(1924):無声映画とピアノ・ライブのコラボレーション」, 慶應義塾大学日吉キャンパス, 慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会 (HAPP), 2008 年 10 月.

・「センチメンタルな金時計」, アムバルワリア祭 VIII「西脇順三郎 影響と受容」, 慶應義塾大学三田キャンパス, 慶應義塾大学アート・センター, 2019 年 1 月.

・「『日曜日の散歩者』に寄せる三つの主題」, フォーラム「日殖時期現代文藝的共時與差異論壇」, 國立台灣美術館 (台中, 台湾), 2019 年 6 月.

・「座談会:大学授業で詩をつくる――「インカレポエトリ」をめぐって」, 『三田文學』2021 年冬季号, 2021 年 2 月.

学外の役職等

・三田文學会常任理事, 2016 年より.

・Membre du Comité scientifique des *Cahiers Jean Cocteau* (『カイエ・ジャン・コクトー』学術委員会委員), 2019 年より.

*

この「略歴と主要業績など」を纏めているあいだ, 脳裡をしきりに去来する藤原定家の歌があった。その木霊を鎮める意味もあって, 上の句の一部を引いてこの記事のタイトルとした。

来しかたはみな面影にうかびきぬ行末てらせ秋の夜の月